

特別企画展

柚木沙弥郎

と

武内晴二郎



柚木沙弥郎《染布帯地》制作年不詳



酒津堤窯（武内晴二郎）《大鉢》1962年

2024年

2025年

11月6日（水）— 3月23日（日）

休館日

月曜日（祝日の場合は翌日）

12月3日（火）～5日（木）および12月29日（日）～2025年1月1日（水）
各種警報（暴風・地震・大雨・津波・洪水・土砂災害等）発令時の臨時休館あり

開館時間

10時～17時（入館受付は16時30分まで）

入館料

一般 一,二〇〇円（一,〇〇〇円）

高校・大学生 五〇〇円（四〇〇円） 小学・中学生 三〇〇円（二〇〇円）

*（ ）内は、20名以上の団体料金

*障がい者手帳等をお持ちの方は、大人五〇〇円、高・大生二五〇円、小・中生二〇〇円

*日本民藝協会会員・倉敷民芸館ファンクラブ会員の方は無料

武内真木

岡山県民藝協会

協力

倉敷民藝館

このたび倉敷民藝館では、特別企画展「柚木沙弥郎と武内晴二郎」を開催いたします。

近年、柚木沙弥郎から武内晴二郎に宛てた昭和24(1949)年1月2日付の書簡が確認されました。

文中には「旧年中小生は(中略)民芸館のための『近県民芸分布図』といふのを作ったのが仕事でした」とあったことから、当館に所蔵されている、図中に『近県民芸分布図』と描かれた軸が当該作品である可能性が極めて高まりました。

柚木沙弥郎(1922-2024)は東京帝国大学(現・東京大学)にて美術史を学び、戦後の一時期就職した大原美術館で芹沢銈介が手がけたカレンダーに出会い、型染めに関心をもちます。当時大原美術館館長の武内潔真は柚木を自身の家に招き、柳宗悦の思想を教え、民藝の世界へと誘いました。その後、染色、版画、絵本、立体を制作する染色工芸作家として活躍します。

柚木が武内家で出会ったのが、武内晴二郎(1921-1979)でした。晴二郎は潔真の次男で、型物のスリップウェア、練上、型押しを制作する陶工です。父・潔真の影響で幼いころから民藝の世界に親しみ、多くの工芸品に触れていました。岡山県民藝協会が行った羽島窯の発足に携わりながら、自身も陶芸に没頭し、1960年倉敷市酒津に酒津堤窯を築きました。二人は一歳違いでしたが、良き友人関係にあり、初対面の日からすぐに親しくなり、民藝を理解する者同士、互いに切磋琢磨しました。

本展では柚木の現存する最初期の仕事である『近県民芸分布図』と、確認のきっかけとなった書簡(個人蔵)を主に、1957年の型染カレンダーや1960~70年代の型染布や帯地、倉敷民藝館のためのロゴや名品図録表紙絵の原画、そして武内が同時期に制作した大皿を、合わせて22点展示予定です。



武内晴二郎《練上鉢》1971年頃



柚木沙弥郎から
武内晴二郎への書簡
1949年



柚木沙弥郎(推定)
《近県民藝分布図》
1948年



柚木沙弥郎《型染帯地》1967年

開催中の特別企画展「羽島焼 一小河原虎吉の仕事」

開催中～12/1(日)

館所蔵および小河原家所蔵の小河原虎吉作品 約130点を展示

同時開催の企画展「ゆかいな食卓」

12/6(金)～2025年11/30(日)

館所蔵の世界各地の食にまつわる民藝品を展示

常設展示 (全館展示品数 約600点)

『岡山の民藝品』『島根と鳥取の焼物』世界各地の『金工品』『籠』『家具』『李朝の焼物と木工品』企画展と併せてご鑑賞下さい

倉敷民藝館

KURASHIKI MUSEUM OF FOLK-CRAFT

会場 倉敷民藝館
問合先
〒710-0046
岡山県倉敷市中央1-4-11
TEL 086-422-1637
最新情報はHPをご確認下さい



公式HP



公式Instagram



JR倉敷駅から徒歩15分
(近隣に市営の有料駐車場あり)